「**ロボットの作り方2012」** 実習1 実習キット組立

6月16日 14:10-16:40

日本工業大学 滝田 謙介

滝田謙介略歴

- 1999年3月~北海道大学大学院研究科情報エレクトロニクス系専攻群システム情報工学専攻複雑系工学講座自律系工学分野にて、知能ロボット、進化計算論、行動型人工知能に関する研究による、システム工学・情報工学の博士号を取得。
- 1999年4月~ロボット研究の第一人者である東京工業大学 広瀬茂男教授の研究室の研究員に着任。恐竜型2足歩行ロボット、ロボット用コントローラ等の開発に従事。
 電子回路・コンピュータ・プログラムに関する知識を活かして、各種ロボットを開発
- 2003年4月~特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構の研究員に就任。レスキューロボット・極限作業ロボットの制御システム、画像安定化システムなどの開発に従事。
- 2004年4月~(株)ハイボットを設立し、代表取締役に就任。電線点検ロボット、水陸両用へビ型ロボット(2005年愛知万博出展)などを開発。電子回路の知識を活かして、マイコンボード・モータドライバなどを開発し、同社より、販売。
- 2009年8月 (株)ハイボットを退社。
- 2009年9月~ 滝田技研(株)として独立し、IRT製品の開発を始める。マイコンボート、 モータドライ バ、充電マネージャー、配電回路などを開発
- •2011年4月~日本工業大学創造システム工学科准教授に着任

本セミナーで組み立てるキット

- STM32VLDISCOVERY を 搭載した鉄棒ロボット。
- ギア付きモータx1を搭載
- 光学式エンコーダ、フル カラーLED、7セグメント、 ジャイロセンサなどを搭 載
- PWM制御によるモータ 制御実習用に開発



STM32VLDiscovery

ST Micro semiconductor社の STM32シリーズの評価ボード

- STM32F100RBT6B, 128 KB Flash, 8 KB RAM
- ST-Link(STM社のデバッグインターフェース)
- 2つの赤色LED; LD1(USB通信), LD2(電源ラ ンプ)
- 電源: USBバスパワー、外部5V、3.3V のいず れか
- ユーザー制御LED(LD3(緑)・LD4(青))
- 2つのプッシュボタン(User・Reset)







世界の定番ARMマイコン 超入門キット STM32ディ スカバリ(CQ出版)

CQ出版杠



基板



基板の半田付けの準備

• ピンソケットの準備



1x28ピン:2本





1x6ピン:1本

1x4ピン:2本

Board_Bについて(お詫びと訂正)

- ・ 光学式エンコーダをBoard_Bの上
 に半田付けします。
- コネクタの印刷が裏表間違っていました。
- コネクタを半田付けする際は、
 R26, C12と同じ面に半田付けしてください。(四角いパッドが1番ピンです。)



部品表(Board_A、Board_B)

部品番号	メーカー	製品名	数	値	実装の有無	部品上の表記
ANALOG, ENC, ENC1	MOLEX	5045-04A	3	4ピン		
C1, C2, C8, C13			4	100uF		
C3, C4, C5, C6, C7,			10	0.1uF		
C9, C11, C12, C14,						104
C15						
D1, D2, D3	Panjit	1S3	3	1.0A 0.5V		
DS1	OptoSupply	OSTA71A1D-A	1	角形フルカラー		
DS2	Sharp	GL9A040G	1	7セグメント		
DS3	OptoSupply	OSHR5111A-TU	1	赤		
JP1		ピンヘッダ	1	2ピン		
L1	太陽誘電株式会社	LHL08NB470K	1	47uH		
PWR_SW	MOLEX	5045-02A	1	2ピン		
Q1, Q2, Q3, Q5, Q6,	Toshiba	RN1201 or RN1202	6			
Q7						
Q4	Fairchild	FQPF14N30	1	Nch MOSFET		
R1, R8, R9, R10, R15,			13	1K		* = + 4
R16, R17, R18, R19,						余 焉 亦 金
<u>R20, R21, R22, R29</u>						* 田 な み
R23, R24, R25			3	10K		金馬位立
R26			1	470		黄 紫 茶 金
R27, R28			2	3.3K		橙 橙 赤 金
R30			1	10		
SERIAL	MOLEX	5045-05A	1	5ピン		
U1	Intersil	ICL3232CPZ	1			
U2	STM	STM32VLDiscovery	1			
U4	 東芝	TA7291P	1	1A(ave) 2A(peak)		
U5	HOLTEK	Ht7750A	1	5∨		
U6	KODENSHI	KE203	1			
U7	Toshiba	TLP191B	1	7V 24uA	 _	
VR1	Bourns	3296W	1	10k		

<u>1番ピン</u> 5045-0xAの向き(一番

ピンを四角いパッドに 挿入する)

1 2 3 4 5		10 9 8 7 6
	D	P.

DS2(GL9A040G)のピン配置

部品表(Board_C、Board_D)

部品番号	メーカー	製品名	数	値	実装の有無
U1	秋月電子	K-04912	1		
ANALOG	MOLEX	5045-04A	1		
PWR_SW	MOLEX	5045-02A	1		
SW1	NECトーキン	RD-7B	1		

半田付けの順番(背の低いものから)

抵抗→ダイオード→セラミックコンデンサ・・・



部品配置



電源・モータ端子

四角いパッドが1番ピン



1番 → 赤 2番 → 黒



1番→赤い配線 2番→青い配線

Board__CとBoard__E, Fとの接続

• L字金具を使って取り付け。





エンコーダ用ディスクの取り付け







ギアボックスの組み立て

• 47.6:1を選択して組み立てます







光学式エンコーダ

外周部に窓を持つスリット
 円板と光電検出装置をそな
 え、光のオン/オフにより信
 号を発生させる方式







接着



「ロボットの作り方2012」 実習2 ARMマイコンによる フィードバック制御

6月17日 11:10-12:00

日本工業大学 滝田 謙介

「ロボットの作り方2012」 実習3 鉄棒ロボットの制御

6月17日 14:00-16:30

日本工業大学 滝田 謙介

STM32

- CORTEX-M3コアを搭載したマイコン
- モータ制御を始め、さまざまなロボットの制御 要素として使用可能。

STM32の使用例

先端基板 TG-Q1101-002

- CPU : STMicroelectronics STM32F103T8U6
- クロック : 64MHz (8MHz内蔵クロックから生成)
- 電源電圧·電流: 3.3V 1A(max) (入力 3.6V~36V)
- 通信 : CAN(CAN2.0B準拠)
- 大きさ : 35mm × 10mm



ARMマイコンによるソフトウェア開発

 STM32VLDISCOVERYサンプルファーム ウェアを使って、STM32マイコンのソフトウェ ア開発について解説

ME ABOUT ST CON me » Tools & Resources	TACTS PRESS LOGIN » Evaluation Tools » Product Eval	uation Boards and Kits » Eval Tools	for MCUs » STM32VLDISCOVERY
TM32VLDISC	OVERY Discovery kit for t	ne Value line STM32F100	
Quick view	Design support	Orderable products	Related information
Description			
he STM32VLDISCOVERY nd experienced users to 4-pin LQFP and an incircu arge number of free read	is a low-cost and quick way to dis get started quickly. The STM32 va it ST-Link debugger / programme y-to-run application firmware exa by the LSDs. button and out	cover the STM32 value line. It inclu ilue line Discovery includes an STM. r to debug Discovery applications a mples are available on www.st.com	ides everything required for beginn 32F100 value line microcontroller in not other target board applications. /stm32-discovery to support quick ar boarde or devices

STM32E100RB microcontroller, 128 KB Elash, 8 KB RAM in 64-pin LOEP

http://www.st.com/internet/com/SOFTWARE_RESOURCES/SW_COMP ONENT/FIRMWARE/stm32vldiscovery_package.zip

Board Photo

シリアルケーブル





AcRobotサンプルプログラム

サンプルプログラムを複数ご用意していますのでそちらを下記からダウンロードして下さい。
 無線LAN で SSID ROBOT のルータに接続して、下記の共有フォルダーを確認してください。

¥¥192.168.11.1¥disk1_pt1

stm32vldiscovery_package.zipをご自身のPC にコピーし、展開してください。

- an3268というディレクトリ中の stm32vldiscovery_packageを、開発用ワーキ ングディレクトリ(たとえば、 C:¥STM32_WORKSPACE など)にコピーする。
- ワーキングディレクトリ中の以下のファイルをE WARMを使って読み込む。

stm32vldiscovery_package¥Project¥Master Workspace¥EWARMv5¥Value_Line_Discovery.eww

サンプルワークスペースの読み込み

⊁ Value_Line_Discovery - IAR Embedde	₩orkbench IDE		_	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) プロジェクト(P)	ツール田 ウィンドウWU ヘルプ(H)			
🗋 😅 🖬 🗊 🚑 🐰 🖻 💼 🗠 🔿	• • • • • •	🗊 🗅 🐢 📣 🐘 🛤 👯 🔶 🗌	▶ ♪	
ワークスペース				• x
DISCOVER - DISCOVER				
72411. 80 23				
□ Nalue Line Discovery				
□ - □ □ DISCOVER - DISC ✓				
EWARMv5 *				
📕 🖃 🗀 StdPeriph_Driver 🔹 🔹				
📕 🖃 stm:32vldiscovery 🔹 🔹				
📕 🗕 🔁 User				
Harrin.c ★				
L L D Stm 32f10x_it.c ★				
□ □ □ Output				
Fiash Program - Flash V				
H = I Stop Mode - STOP M ✓				
└─⊞ 🗇 wwdg - wwdg * 🗸				
	N			
	74			
l				
一覧 DISCOVER DMA EXTI ()				
洋備完了			NUM C	

オプションの変更

Yelue_Line_Disco ファイル(E) 編集(E)	very - IAR Embedded \ 表示(い) ジロジャクト(の) >	Workbench IDE ツール(ローウインドウ600	AL700	
	「と印刷」のの「	[a 🕼 🖻 😭 🐋 🕭
ワークスペース	×			~ x
DISCOVER - DISCOV	ER 💌			
78116	1: DI			
🗄 🖸 Value_Line_Dis.				
	オブション(2)			
	x193au)			
-E Flash Proe	32/16/102			
-E GPIOToce	すべてを再ビルド(目)			
E OWDG - DW	-99-94 <u>9</u>			
-E JIAG Ren	150件教授正(3)			
	追加(A)	•		
-E STANDBY -E Stap Mode	●時間 名前の文定			
-E Systick - :	バージョン/管理システム(2)	•		
	含むフォルダを開く ファイルのプロパティ(空)			
	アリティブに設定に			
-				
5/				
一覧 DISCOVER	DMA			
選択したアイテムのオブショ	しを編集します			

CMSISを設定する

 DISCOVERYの一般オプションのライブラリ 設定で、"CMSISを設定する"にチェック

	カテゴリ: - 般オプション C/C++コンパイラ アセンブラ 出力コンバータ カスタムビルド ビルドアクション リンカ デバッガ シミュレータ Angel GDBサーバ IAR ROMモニタ J-Link/J-Trace TI Stellaris Macraigor PE micro RDI	ターゲット 出力 ライブラリ設定 ライブラリオブション MISRA-C:2004 MISRA-C:1998 ライブラリ①: 説明: ワーマル マ CONSTRATE
--	--	--

エントリの削除

 C/C++コンパイラのプリプロセッサ から \$PROJ_DIR\$¥..¥..¥Libraries¥CMSIS¥C M3¥CoreSupport¥を削除

	工場出荷時設定
→般オプション 📃 🔺	□ 複数ファイルのコンパイル
C/C++コンパイラ	▶ 未使用パブリックを破棄
アセンブラ 出力コンバータ	言語 1 言語 2 コード 最適化 出力 リスト プリプロセッサ 診断 MISR ◀
カスタムビルド	□ 標準のインクルードディレクトリを無視印
ビルドアクション	追加インクルードディレクトリ(<u>A</u>):(1行に1ディレクトリ)
リンカ	\$PROJ_DIR\$¥.¥inc¥
デバッガ	\$PROJ_DIR\$¥.¥.¥Libraries¥S1M32F1Ux_StdPeriph_Driver¥inc¥ \$PROJ_DIR\$¥.¥.¥Litilities¥
シミュレータ	\$PROJ_DIR\$¥¥¥Libraries¥CMSIS¥CM3¥DeviceSupport¥ST¥STM32F10x
Angel	
GDBサーバ	フリインクルードファイル(<u>R</u>):
IAR ROMETS	
J-Link/J-Trace	シンボル定義(D):(1行(ご)シンボル)
	USE STDPERIPH DRIVER 「ファイルへのフリフロセッサ出ノハビ」 STM32F10X MD VI
TI Stellaris	
TI Stellaris	ー 利用eナイレクナイプ生成いG7
TI Stellaris	マード #imeティレクティン生成(g)

メイクの実行

∦Value_Line_Discovery - I	AR Embedded Workbench	IDE				
ファイル(E) 編集(E) 表示(⊻)	プロジェクト(<u>P) ツール(T)</u> ウィ	心やう ヘル	,ブ(H)			
D GA L G A E	ファイルの追加(E) グループの追加(G) ファイルリストのインポートФ ビルド構成の編集(T)			: ¥ 🗗 🖻	P 🗳 📴	- ×
ファイル 8m 単 つ Nolue_Line_Dis	削除₩ 新規プロジェクトの作成(№)		-			
🗖 🗇 DMA - DM 🗸	既存プロジェクトの追加(E)					
EXTI-EXT V	オプション(<u>0</u>)	Alt+F7	_			
	バージョン管理システム(V)		▶			
	メイク(<u>M</u>)	F7				
	コンパイル/20/ すべてを再ビルド(B)	Utri+F7				
E Sleep Mode ✓	加ーン(1)					
- ⊕ 🗇 STANDBY 🗸	バッチビルド(<u>A</u>)	F8				
📕 🕀 🗊 Stop Mode 🗸		Ctrl+Break				
📕 🕂 🗊 Systick - S 🖌		OLU D	-			
	ダウンロードしてデバック(U) ダウンロードせずにデバッグ(H) メイク後デバッガを再起動(K) デバッガを再起動(R)	Ctrl+R Ctrl+Shift+R				
			-			
	テハイスファイルを開く					
□ DISCOVER DMA 4						
アクティブなプロジェクトをメイクします	必要なファイルのみをビルドします)					1.

メイクの成功

🗶 Value_Line_Discovery - IAR Embedded Workbench IDE	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) プロジェクト(P) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	
□ ☞ 目 Ø 参 3 略 ඬ > >	× ዾ
	• x
DISCOVER - DISCOVER	
ファイル 82 🗠 🔺	
🖂 🔂 Value_Line	
Flash Pr ✓	
<u> 一覧 _DISCOVER _DMA ∢ ▶</u>	
* メッセージ ファイル 行	
misc.c	
startup_stm32f10x_mo_vis stm32f10x extic	
stm32f10×_gpio.c	
stm32f10x_it.c stm32f10x_owr.c	
stm32f10x_rcc.c	
system_stm32f10x.c 川心力中	
エラーの合計数:0 ローニングの会計数:0	-
準備元子 エンジャンシャンクリー・ションションクリー・ションクリー・ションクリー・ションクリー・ションション	11.

デバッグ

- 1. STM32VLDiscoveryをPCとUSBケーブル で接続する。
- 2. ST-LinkがPCに認識される。
- 3. EWARM上で、ダウンロードを実行
- 4. プログラムを実行。
- 5. エラーがあれば、ソースファイルを変更→メ イクを実行し、ダウンロード、プログラムの 実行を繰り返す。

ダウンロードしてデバッグ

🔀 Value_Line_Discovery - I	AR Embedded Workbench	IDE				- D ×
ファイル(E) 編集(E) 表示(⊻)	プロジェクト(<u>P</u>) ツール(<u>T</u>) ウィ	心ドウ₩ へル	,7 <u>(H)</u>			
D 2 III (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	ファイルの追加(E) グループの追加(G) ファイルリストのインポート型 ビルド構成の編集(T)			¥ 1 🗹 🖉 🗭 🌩	🖨 🔛 🞼	₩ 🖗 🕭 • ×
ファイル \$ <td>前除(<u>い)</u> 新規プロジェクトの作成(<u>N</u>) 既存プロジェクトの追加(<u>E</u>)</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td>	前除(<u>い)</u> 新規プロジェクトの作成(<u>N</u>) 既存プロジェクトの追加(<u>E</u>)		-			
	オプション(Q) バージョン管理システム(V) メイク(M)	Alt+F7 F7				
→覧 DISCOVER DMA (× Janta = 51	コンパイル(©) すべてを再ビルド(<u>B</u>) クリーン(<u>L</u>) バッチビルド(A)	Gtrl+F7 F8		774		
misc.c startup_stm32f10x_md_v stm32f10x_exti.c stm32f10x_gpio.c stm32f10x_it.c stm32f10x_pwr.c stm32f10x_rcc.c system_stm32f10x.c	ビルドを停止(S) ダウンロードしてデバッグ(D) ダウンロードせず(こく、マッグ(H) メイク後デバッガを再起動(K) デバッガを再起動(R) ダウンロード(W)	Otrl+Break Ctrl+D Otrl+R Otrl+Shift+R				
シンシャ エラーの合計数:0 ワーニングの合計数:0 アプリケーションをダウンロードしてデバ	デバイスファイルを開く ッガを起動			ラーム ワーニング 0		•

プログラムのデバッグ実行画面

• F5キーを押して、プログラムを実行



青色LEDが点灯して 緑色LEDの点滅周期が 変化

walde_Line_Discovery - IAR Embedded Workbench IDE	
D 👺 🖥 🚳 3 № 🖻 9 ♀	🗵 🖻 🌪 🍓 🎒 🦛 👯 🐕 🛃 🛃 🖉
□ ● B → B 当 □ □ ×	
<u>ワークスペース × main.c</u>	▼× 逆アセンブリ ×
DISCOVER - DISCOVER	移動 逆アセンブリ ○×8000110: 0×0000 0×8000114: 0×0000 0×8000118: 0×0800 0×800011c: 0×0800 int main(void) { main: 0×8000120: 0×b538 RCC_APB1PeriphClock 0×8000122: 0×2101 0×8000122: 0×2101 0×8000128: 0×f000 STM32vldiscovery_LE▼
 × メッセージ 構成 DISCOVER - DISCOVER をビルド中 ビルドツリーを更新中 構成は最新です。 	ファイル 行
■ デバッグログ Eルド	×
準備完了 エラー 0、	. ワーニング 0 //.

マイコン制御の流れ

一般にOSを使用しないマイコンプログラムでは、以下の流れで、処理が行われる。

各種周辺機器の設定 ↓ 処理の開始 ↓ while文で無限ループ 割込でイベント処理

周辺機器の初期化

- 50.1 int main(void).1
- 51.5 {.5
- 52., /* Enable GPIOx Clock */.,
- 53., RCC_APB1PeriphClockCmd(RCC_APB1Periph_PWR, ENABLE);.,

- 54.a .a
- 55., /* Initialise LEDs LD3 &LD4, both off */.,
- 56., STM 32vldiscovery_LEDInit(LED 3);.,
- 57., STM 32vldiscovery_LEDInit(LED 4);.,

無限ループ



 while(1)で無限ループに入り、ボタンを読み 取り、処理を実行する。

実際のデバッグ

 実行中の変数の状態を監視するためには、 ブレークポイント(プログラムを一時停止する 場所)を設定します。ブレークポイントは、ソー スコードの停止したい分の左側ダブルクリック します。

ワークスペース			stm32f10x_adc.c stm32f10x_adc.h stm32f10x_gpio.c stm32f10x_gpio.h stm32f10x
DISCOVER - DISCOVER			143 /* BlinkSpeed: 0 -> 1 -> 2, then re-cycle
ファイル	82	۲.	144 BlinkSpeed ++ ; 145 }
🗉 🗈 Value_Line_Dis			
- 🕀 🗇 DISCOVE	¥		148 count++;
- 🕀 🗇 DMA - DMA	¥ .		● 149 Delay(100); 150 (# Divel-Second 0. #/
EXTI - EXTI	¥		150 /* BlinkSpeed: 0 */
	~		152 {
- GPIOToggle	~		153 if (4 == (count % 8)) 154 STN92uldiocourru ED0p(LED2):
	~		if(0 == (count & 8))
– ⊞ 🗇 JTAG Rem	~		156 STM32vldiscovery_LEDOff(LED3);
- 🕀 🗇 RCC - RCC	¥		157 /* BlinkSpeed: 1 */
– ⊕ 🗇 Sleep Mode	•		159 if(BlinkSpeed == 1)
- ⊕ 🗇 STANDBY	•		i if(2 == (count % 40)
— ⊞ 🗇 Stop Mode	¥		162 STM32vldjscovery_LEDOn(LED3);
HT CSvetick - S			if (0 == (count % 4))



• 表示の中からローカルを選択する。



ウォッチの指定

- count変数を監視対象にするために,count変数の上で右ク リックをして,ウォッチに指定する。
- [F5]キーでプログラムすると先ほど指定したBPまで実行され てcount変数が更新される。



プログラムが動くようになるまで

基本的にはプログラム→実行→動作確認→
 改良→プログラム→・・・という流れを繰り返し、動作する状態にする



AcRobotサンプルプログラム

サンプルプログラムを複数ご用意していますのでそちらを下記からダウンロードして下さい。
 無線LAN で SSID ROBOT のルータに接続して、下記の共有フォルダーを確認してください。
 ¥¥192.168.11.1¥disk1_pt1

サンプルプログラム



サンプルプログラム

 AcRobot_7SEGMENT:7セグメントLEDを点 灯するプログラムです。7セグメントLEDの点 灯のタイミングは、for文を使用しています.

 AcRobot_7SEGMENT_TIMER:CORTEX-M3が持つタイマーを使用して時間を計測す る関数を含んだ7セグメントLEDの点灯プログ ラムです。

AcRobot_7segment.h

7セグメントLEDを点灯するための関数を以下に示します。

- void Acrobot_7SEG_Init(void);
 IOポートの初期化をする関数。
- void Acrobot_7SEG_LEDON(uint8_t ch);
 それぞれのLEDを点灯するための関数
- void Acrobot_7SEG_NO(uint8_t num,uint8_t dp);
 0~9、a~fを表示するための関数。上記の
 Acrobot_7SEG_LEDONにそれぞれの文字に使用するchを指定。

void Acrobot_7SEG_Init(void)

- void Acrobot_7SEG_Init(void)
- •
- GPIO_InitTypeDef GPIO_InitStructure;

IOポートにクロックを供給して, IOポートを使える用にする。

- RCC_APB2PeriphClockCmd(ACROBOT_7SEG_CLK, ENABLE);
- •
- GPIO_InitStructure.GPIO_Pin = ACROBOT_7SEG_A_PIN;
- GPIO_InitStructure.GPIO_Mode = GPIO_Mode_Out_PP;
- GPIO_InitStructure.GPIO_Speed = GPIO_Speed_50MHz;
- GPIO_Init(ACROBOT_7SEG_A_PORT, &GPIO_InitStructure);

GPIOピン・モード・スピードを指定して、該当ピンを初期化

AcRobot_Utils.h

void TIM2_delayus(uint16_t us);
 TIM2 (タイマー2)を使用してマイクロ秒の時間
 を計測する関数。

 void TIM2_delayms(uint16_t ms);
 TIM2 (タイマー2)を使用してミリ秒の時間を計 測する関数。

TIM2_delayus(uint16_t us)

TIM2 (タイマー2)を使用してマイクロ秒の時間を計測する関数。

- void TIM2_delayus(uint16_t us)
- {
- TIM_TimeBaseInitTypeDef TIM_TimeBaseStruct;
- RCC_APB1PeriphClockCmd(RCC_APB1Periph_TIM2, ENABLE);
- •
- if(us>1000)us = 1000;
- •
- TIM_TimeBaseStruct.TIM_Period = 24*us-1; // 1us
- TIM_TimeBaseStruct.TIM_Prescaler = 0;
- TIM_TimeBaseStruct.TIM_ClockDivision = 0;
- TIM_TimeBaseStruct.TIM_CounterMode = TIM_CounterMode_Up;
- TIM_TimeBaseStruct.TIM_RepetitionCounter = 0;
- TIM_TimeBaseInit(TIM2, &TIM_TimeBaseStruct);
- TIM_SelectOnePulseMode(TIM2, TIM_OPMode_Single);
- TIM_SetCounter(TIM2,0);
- TIM_Cmd(TIM2, ENABLE);
- ・ while (TIM_GetCounter(TIM2)){}; クロックを数え終わるのを待つ。
- TIM_Cmd(TIM2, DISABLE);

CPUが周波数24MHzで動作して いる→ 24クロック数えれば、1us

TIM2を起動する。

TIM2にクロックを供給して.

•]

サンプルプログラム

 AcRobot USART:本キットでは、STM32が 持つ同期・非同期シリアル通信モジュールの 内USART1の入出カピンがRS-232レベルコ ンバータに接続されています。 STM32 USARTは、USART1を使用して、 printf関数に相当する Acrobot USART Printf関数を実装していま す。

AcRobot_USART.h

- void Acrobot_USARTInit(void);
 USART(非同期・同期シリアルトランシーバ)を初期化する。
- void Acrobot_USART_SendChar(char c);
 一文字分のデータを送信する
- void Acrobot_USART_SendString(char *str);
 Acrobot_USART_SendCharを使用して文字列を送信する。
- int Acrobot_USART_Printf(const char *fmt, ...);
 書式付きprintfを実装したもの

シリアルケーブルの接続

 SERIALにDSUB9ピンケーブルを接続し、D-SUB9ピンをUSBシリアルケーブルに接続する



サンプルプログラム

- AcRobot_ADC: 半固定抵抗が一つ搭載されています。半固定抵抗のツマミを回すと、出力ピンの電圧が変化します。また、ジャイロセンサからの出力を角速度に応じて電圧が変化します。そのような電圧の変化をマイコンに取り込むのがADコンバータです。
- AD変換された値は、
 Acrobot_USART_Printf関数によりシリアル
 ポートに出力されます。

AcRobot_ADC.h

- void Acrobot_ADC_Init(void);
 ADコンバータモジュールを初期化する。
- uint16_t Acrobot_ADC_Read(uint8_t ch);
 指定したチャンネルのAD変換した値を取得する。

サンプルプログラム

AcRobot_Encoder:本キットでは、上下の基板の角度を、光学式エンコーダを用いて計測します。STM32_Encoderプロジェクトは、光学式エンコーダの信号を取り込むカウンタ回路の処理を含んでいます。取り込んだ値は、Acrobot_USART_Printf関数によりシリアルポートに出力されます。

AcRobot_Encoder.h

- void Acrobot_QEI_Init(void);
 TIM4のカウンタ機能を設定。
- uint32_t Acrobot_QEI_GetCount(void);
 エンコーダのカウント値を取得。

シリアル出力結果

- 最初の3つがAD変換した値
- (基板上の半固定抵抗、ジャイロセンサの値x2)
- Encoder値(Acrobot_QEI_GetCountで取得した もの、TIM4のカウント値)

🚾 COM19:115200baud - Tera Term VT													
771.	μ(E)	編集(E)	設定(S)	コント	·□−ル©)	ウィンドウ	Ŵ	ヘルプ(円)					
Prog	Program Start												
ADC	371	18 - 13	986 - 1	978	Encoder	2048	204	8					
ADC	- 371	20 - 12	982 - 1	972	Encoder	2048	204	8					
ADC	370	13 - 13	986 1	971	Encoder	2048	204	8					
ADC	370	19 - 13	985 1	97B	Encoder	2048	204	8					
ADC	373	18 - 13	982 1	973.	Encoder	2048	204	8					
ADC	370	14 13	989 1	972	Encoder	2048	204	8					
ADC	370	16 - 13	984 1	973	Encoder	2048	204	8					
ADC	371	17 - 13	983 1	974	Encoder	2048	204	8					
ADC	371	17 - 13	987 1	973	Encoder	2048	204	8					
ADC	371	18 13	985 1	973	Encoder	2048	204	8					
ADC	371	17 - 13	987 1	972	Encoder	2048	204	8					
ADC	371	17 - 13	982 1	973	Encoder	2048	204	8					
ADC	371	16 - 13	985 1	973	Encoder	2048	204	8					
ADC	370	18 1	982 1	972	Encoder	2048	204	8					
ADC	- 370	16 - 1	982 1	972	Encoder	2048	204	8					
ADC	- 370	17 - 13	987 1	971	Encoder	2048	204	8					

サンプルプログラム

 AcRobot PWM:本キットでは、PWM信号を 用いて、モータを駆動することができます。 AcRobot PWMプロジェクトは、タイマー回路 を用いて、一定の周期で、エンコーダから現 在の関節角度を取得・比較を行い、目標角度 に向かってモータを回転させる相補PWM信 号を生成する処理が実装されています。本 キットでは、モータの電源は、フォトカプラを 使ったスイッチ回路でON/OFFできる構成に なっており、そのための制御も含みます。

電源回路



本セミナーで組み立てるキット

- STM32VLDISCOVERY を 搭載した鉄棒ロボット。
- ギア付きモータx1を搭載
- 光学式エンコーダ、フル カラーLED、7セグメント、 ジャイロセンサなどを搭 載
- PWM制御によるモータ 制御実習用に開発



摩擦がある振り子なので、いずれ 止まってしまう。



サンプルプログラム

- AcRobot_ACROBOTプロジェクトは、ADコン バータを用いて取得したジャイロセンサの値 を使って、鉄棒周りの角速度が大きくなるよう に、関節の曲げ伸ばしを実行します。
- ジャイロセンサで角速度を計算し、速度と加速度の向きが等しいとき(加速しているとき)に体を伸ばして、異なるときに体を曲げる。